

要求仕様	
1	入力部
1-1	測定項目は標準12誘導心電図（標準表示/カブレラ表示）、観血血圧×7チャネル、熱希釈式心拍出量、非観血式血圧、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO2)×2ch、呼吸曲線（インペーダンス式/サニタ方式/CO2方式）、体温×4ch、BIS、CO2が可能であること。
1-2	BIS,CO2の測定は数値表示だけでなく、波形表示も可能であること。
1-3	導出18誘導心電図が計測可能であること。
1-4	標準12誘導心電図、導出18誘導心電図、観血血圧、非観血式血圧、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO2)、呼吸曲線、体温、BIS、CO2は血行動態検査、EPS検査で共通のソフトが使用できること。
1-5	心内心電図ユニットを準備することで本機にて心内心電図160極以上のカテーテル入力で176チャネル以上の測定が可能であること。
1-6	入力部が取り外し可能でモニタとしても運用可能であること。
1-7	対応のベッドサイドモニタとLAN接続することにより、ベッドサイドモニタからECG/BP波形を入力することが可能なこと。
2	システム部
2-1	ハードディスクはRAID-1システムを採用しており、1TB以上の容量を有していること。
2-2	システムデータはSSDに保存され、不意の書き込みが出来ない機能を有していること。
3	表示部
3-1	本体波形表示用に解像度1600×1200ドット以上、21型以上のカラー液晶ディスプレイを2基または3基装備していること。
3-2	波形表示は実寸が可能であり、任意に2倍までのサイズ（Ratio）変更が行えること。
3-3	ウェブディスプレイにはリアルタイム波形を全画面波形表示または3分割表示が可能で、それぞれの画面に最大64チャネルの波形表示が可能であること。
3-4	各波形表示ウィンドウはマウス操作により表示エリアの拡大、縮小が随時可能であること。
3-5	標準12誘導心電図、導出18誘導心電図表示は四肢誘導6チャネルと胸部誘導6チャネル（12チャンネル）の分割表示が可能であること。
3-6	標準12誘導心電図、導出18誘導心電図表示は標準表示とカブレラ表示の切り替えが可能であること。
3-7	計測値の表示は6種以上のデータを画面の上下左右の任意の位置に表示できること。
3-8	波形画面のレイアウトは8画面以上有しており、レイアウト変更が可能であること。
3-9	モニタのグリッド表示は波形レイアウトごとに設定できること。
3-10	体表面心電図、心内心電図、刺激装置からの信号をトリガースとしてトリガ掃引可能なこと。
3-11	掃引速度は、6.25、12.5、25、50、100、150、200、400mm/sec の切り替えが可能であること。
3-12	コンディションごとに血圧データ、弁口面積情報、Oxy情報、血管抵抗の比較ができること。
3-13	SPO2の信号信頼性を示すSQI値、測定部位の循環状態を示すPI値を表示できること
4	操作部
4-1	システムの操作は専用キーボード、フルキーボードおよびマウスを併用できること。
4-2	本体から40m離れた場所で操作できるリモート機能を有すること。
4-3	ヘッドレールへの固定が可能な遠隔操作用キーボードを有し、圧解析、CO測定、記録およびタイマー操作、イベント波形取込、表示波形切換の操作が可能であること。
4-4	専用キーボードに血圧のサブサイトキーを有すること。
5	解析、計測機能部
5-1	血圧解析は1心拍毎のリアルタイム方式（リアルタイム解析表示）とバッチ処理方式（取り込んだデータを解析する）が可能なこと。
5-2	血圧解析項目は心房波（a波、v波、平均圧）、心室波（収縮期圧、拡張期初期圧、拡張期末期圧）、動脈圧（収縮期圧、拡張期圧、平均圧）であり、弁口面積演算が可能であること。
5-3	心室圧測定をすることにより、拡張期指標である-max dp/dt、 τ 解析が行えること。
5-4	冠動脈狭窄部の末梢の血圧を測定することにより、FFRmyo（心筋部分血流予備量）をリアルタイムに演算できること。

5-5	12誘導心電図のST変位をリアルタイムに解析可能で、トレンド表示出来ること。
5-6	12誘導心電図の基準波形は画面上に静止表示が可能で、ST変位計測点を表示できること。
5-7	導出18誘導心電図のST変位をリアルタイムに解析可能で、変化をトレンド表示出来ること。
5-8	導出18誘導心電図の基準波形は画面上に静止表示が可能で、ST変位計測点を表示できること。
5-9	12誘導心電図、導出18誘導心電図解析を行うことにより、QRS幅解析が行えること。
5-10	動脈血酸素飽和度演算（サットリ）、血管抵抗演算が可能であること。
5-11	動脈血酸素飽和度演算ではシェーマ表示、シェーマからの入力が可能なこと。
5-12	計測用のキャリブは時間、振幅および血圧波形計測（最高／最低／平均）が可能であること。
5-13	タイマーは最高3つの並行した計測が可能で、リレー動作やダウンカウントが可能であること。
5-14	2画面での心内心電図リアルタイムビートインターバル解析表示が可能であること。
5-15	解析レビュー時に1拍毎の解析値を見ながら編集することが可能であること。
5-16	心内心電図自動解析機能を有し、A-H,H-V,A-A,PPIとペーシングから任意に設定された波形までの時間を計測できること。
5-17	12誘導心電図、導出18誘導心電図にてペースマップ一致率計測機能を有すること。
5-18	AR Indexの表示が可能なこと。
5-19	Systolic Area Index(SAI)の表示が可能なこと。
5-20	複合筋活動電位（compound motor action potential；CMAP）を用いて横隔膜筋電位を計測し、コントロール波形とリアルタイム波形の波高値を計測し、重ね合わせて比較表示（％表示）が可能なこと
6	ファイリング部
6-1	検査開始から終了までのすべての波形を自動的かつ連続的にハードディスクに保存できること。
6-2	恒久的保存メディアとして50GB以上の容量を有するBlu-rayに連続波形を含む計測波形および解析データを保存できること。
6-3	検査直後にビューステーションにて検査が閲覧、解析できること。
6-4	刺激装置の刺激条件を設定された刺激名と共に自動でLogに記載できること。
6-5	イベント時の情報は検査に合わせてソートが可能である。
7	データ通信部
7-1	患者情報は放射線科情報システム(RIS)または同等システムからDICOMワークリスト（MWM）規格にてオンライン取得が可能であること。
7-2	測定波形および画面コピーはDICOM規格にて任意の波形を選択することができ、任意の順序で画像サーバ等の外部システムに出力できること。